

令和元年度地域人材との連携による子どもの読書活動推進事業

「読書活動活性化フォーラム」事例集

北海道教育庁生涯学習課社会教育・読書推進グループ

北海道教育委員会では、子どもの読書活動の推進に向け、司書教諭、学校司書、教育委員会職員、公立図書館職員、地域のボランティアなどの子どもの読書活動の推進に関わる人材が一堂に会するフォーラムを実施しています。

令和元年度は、後志管内、胆振管内、檜山管内、上川管内、根室管内の5管内で実施し、地域全体における読書環境の整備や子どもの読書活動の活性化に向けた様々なヒントを得ることができました。

また、北海道教育委員会では、家庭・地域・学校が連携を図った体制整備及び全体計画等に基づいた活動とその評価・改善を含めた取組を「チーム読書」というキーワードとして取組を推進しております。その内容を次に示していますので併せて周知願います。

「チーム読書」とは、「連携」と「計画・改善」です



チーム読書

- ①学校・地域・家庭が連携を図った子どもの読書活動推進の指導体制づくり
- ②学校図書館の全体計画等及び指導体制の点検、評価、改善

学習指導要領の改定により、学校図書館において児童生徒が言語活動や探究活動などの学習活動を行う機会がますます多くなり、今後、学校図書館の環境整備の充実はもとより、効果的な利活用の促進を図っていくことが一層求められるようになります。

このような状況で、学級担任や教科担任が単独で取組を進めていくことは、大きな負担であり、効果的な取組の実現が困難であることから、学校の教職員がチームとなり指導方法などについて共通理解を図るとともに、地域の様々な人材の協力を得て子どもの読書活動の推進に取り組みましょう。

これまで 授業準備だけで手一杯だ

・どの時期にどんな指導をしたらいいの？
・読み聞かせ苦手だな
・調べ学習で本をそろえなければ、大変！

学級担任 教科担任



PDCA | カリキュラム・マネジメント

取組の評価・改善

質の向上

上川会場

令和元年 11 月 15 日（金） 参加者 42 名

◆パネルディスカッションの概要◆

◆佐藤 敬子 氏（全国学校図書館協議会学校図書館スーパーバイザー）

- ・読書は、小説などを読むことだけではなく、事典で調べ学習を行ったり写真集を見たりするなど、幅広くとらえることが必要である。
- ・学校図書館を充実させるためには、学校だけでなく、家庭や地域が一体となった取組を行うことが重要である。



【フォーラムの様子】

◆清水 幸喜 氏（剣淵町絵本の館館長）

- ・絵本の館の訪問者が、自分のお気に入りの本を選ぶ「けんぶち絵本の里大賞」を実施している。
- ・絵本の原画展に合わせた読み聞かせや高齢者サロンでの読み聞かせなど、子どもだけでなく、大人に対しても絵本に親しむ機会を設定している。

◆加藤 直子 氏（旭川市立愛宕中学校教諭）

- ・図書館教育全体計画に基づいた活動を行うことで、地域と連携を図った取組の充実が図られてきた。
- ・学習への集中力を高めることを目的に朝読書を実施している。
- ・各学年の国語科「読書生活を豊かに」の単元に関連付け、A4用紙1枚で本を紹介し、読みたいと思った本に生徒が投票する「ベストブックコンテスト」を実施している。
- ・本の楽しさを共有するために、小学校へ中学生が出向き、読み聞かせを行っている。

◆小柳 美和 氏（読み聞かせサークル芽ぶっく代表）

- ・剣淵町の保育所や小学校、子育て支援センター、障害者施設などで読み聞かせを行っている。
- ・町内の小学校と中学校でブックトーク授業、高等学校で紙芝居講座を行っている。
- ・保育所、小学校、中学校、高等学校を一連の流れとした読書活動が必要である。

◆若 林 みずほ 氏（絵本専門士（土別市立土別南小学校教諭））

- ・親子が市内の施設や商店等を巡りながら絵本を読むことによって、その楽しさを味わうほか、ふるさとのおよさを知るなどを目的に、「まち読」として、絵本を置いた商店等を親子で巡る「しべつ絵本ツアー」を実施している。
- ・絵本は、人や場所をつなぐことができるため、「まち読」はみんなが笑顔になれる。
- ・読書活動の点を線に、線を面にと、地域全体で取り組めるようにしていきたい。



「ぶっくん」からのポイント

- ・剣淵町は、町立図書館のみではなく、地域全体で読書活動の活性化が見られますね。

◆フォーラムの内容を踏まえた事後の実践◆

【事例】南富良野町～道徳の授業で！

- ・フォーラムで「絵本セラピー」のよさを知り、1・2年生では「規則尊 3・4年生では「友情・他者理解」、5・6年生では「よりよくきる」をテーマに、道徳の時間に読み聞かせ活動を実施した。
- ・教員からは、「テーマに合った絵本の読み聞かせを実施したことにより、児童がより深く考えたり、話し合いを深めることができた。」という感想が聞かれた。



【授業の様子】

「ぶっくん」からのポイント

- ・各学年の発達段階に応じて、児童の心に響く読み聞かせを行うことができたのですね。



※絵本セラピー：絵本を使った心理療法

後志会場

令和元年 10 月 23 日（水） 参加者 28 名

◆パネルディスカッションの概要◆

◆佐藤 敬子 氏（全国学校図書館協議会学校図書館スーパーバイザー）

- ・中学校の司書教諭・係教諭として 30 年間、生徒の情報活用能力を高めるため、学校図書館の環境整備や授業での活用の推進に努めてきた。
- ・学校図書館を活用した授業づくりや学校図書館の活性化に向け、これまで、様々な書籍を単著や共著により発行してきた。

◆渡邊 晋子 氏、松林 純 氏（共和町立西陵小学校教諭）

- ・平成 29 年度から学校図書館活用促進事業の指定校として、学校図書館の活用促進に向けた研究を推進している。
- ・学校図書館の年間計画を作成し、町立図書室と連携して各教科で必要な書籍の充実を図っている。



◆加藤 久美子 氏（市立小樽図書館司書）

- ・学校図書館運営相談や授業支援、移動図書館バスの利用体験など、ニーズに対応した学校支援サービスを実施している。
- ・市内の学校に配置されている 6 名の学校司書と定期的に情報交流するとともに、学校向けに「学校図書館通信たるばとレポート」を発行し、学校司書の活動について周知を図るなど、連携・協力している。
- ・地域の読書サークルや教員、学生などと協力して、図書館における児童向けの行事を実施している。

◆菅原 千恵 氏、増田 晴代 氏（絵本の会「おひさま はらっぱ」）

- ・小学校や子育て支援センターにおいて、読み聞かせやお話し会を開催している。
- ・学校との連携を強めていく中で、教員の協力を得て、お話し会に合わせて楽器演奏や工作教室などを実施することにより、活動の充実を図っている。



「ぶっくん」からのポイント

- ・市立図書館が「学校図書館通信」を発行して、学校司書の活躍やその必要性について周知を図り、サポートしているのが素晴らしいね。

◆フォーラムの内容を踏まえた事後の実践◆

【事例】 小樽市～中学校図書専門委員会が小学校を訪問！

- ・小樽市立北陵中学校の図書専門委員会生徒が、小樽市立高島小学校を訪問し、図書委員会の児童と交流を行った。
- ・中学生から学校図書館の利用者増を目的にスタンプラリーや昼の校内放送でおすすめの本を紹介していることなどの活動について説明を受けるとともに、中学生がバトラーとなってビブリオバトル体験会を実施した。
- ・事後に、小学校の図書委員会が、学校における読書活動の活性化に向け、新たな企画を行うなどの姿が見られた。



「ぶっくん」からのポイント

- ・小中連携の視点からも、中学生が小学生に対して、学校における読書活動の活性化を働きかける取組は素晴らしいですね。

檜山会場

令和元年 10 月 25 日（金） 参加者 23 名

◆パネルディスカッションの概要◆

◆佐藤 敬子 氏（全国学校図書館協議会学校図書館スーパーバイザー）

- ・中学校の司書教諭として 30 年間、生徒にとって活用しやすい学校図書館となるよう、環境整備に努めてきた。
- ・学校図書館を活用した授業づくりや学校図書館の活性化に向け、様々な書籍を単著や共著により発行してきた。



【フォーラムの様子】

◆大場 菜摘 氏（今金町教育委員会社会教育主事）

- ・今金町では「読書と作文のまち『いまかね』」を掲げ、子どもたちの学力向上を図るため、地域一丸となって読書と作文を取り入れた学力向上対策に取り組んでいる。
- ・各機関・関係団体・地域住民から構成する「読書と作文のまちプロジェクトチーム」は、各分野における活動内容の共有・企画やプロジェクトチームとしての取組の企画・実践などを行っており、町民が本に触れる多くの機会を設定している。

◆紺野 克典 氏（函館市立大森浜小学校長）

- ・「チーム読書」をキーワードとして、保護者やボランティアとの連携を図りながら、校内の読書環境の整備や児童の読書活動の活性化を推進している。
- ・次年度の新学習指導要領完全実施を控え、学校図書館の機能を生かした教育課程の整備や授業改善を進めている。

◆室谷 恵美子 氏（絵本サークル「ポポリン」会長）

- ・会員向けの学習会を月に 2 回実施しているほかに、絵本関連の講演会や研修会、原画展等には道内外を問わず積極的に参加し、会員の知識・技能の向上を図っている。
- ・読み聞かせやブックトークなどの活動のほかに、行政や関係機関と連携し、「ブックスタート」や「両親学級」などにも参画し、本を通じた子育て支援や家庭教育支援に積極的に取り組んでいる。



「ぶっくん」からのポイント

- ・学校や地域において、保護者を対象とした取組を行うことは、子ども読書への興味・関心をもたせる上で重要な視点ですね。

◆フォーラムの内容を踏まえた事後の実践◆

【事例】 上ノ国小学校～校内研修でビブリオバトルを体験！

- ・校内研修において教員同士によるビブリオバトルの体験を実施した。このことを通して、教員全体でビブリオバトルの意義や手法を理解するとともに、その魅力について体感することができた。
- ・今後、ビブリオバトルを校内研究の対象教科である国語科の中で導入及び活用ができないか、検討していくことが確認された。



「ぶっくん」からのポイント

- ・教育課程に、ビブリオバトルを取り入れることは、大変素晴らしい展開ですね。

胆振会場

令和元年 12 月 4 日（水）

参加者 33 名

◆パネルディスカッションの概要◆

◆佐藤 敬子 氏（全国学校図書館協議会学校図書館スーパーバイザー）

- ・調べ学習等で学校図書館を活用するにあたっては、図鑑や百科事典の調べ方など、どの場面でどのようなスキルが必要なのかを見極め、それらを「学び方の指導」として適切に行うとともに、これらの指導を全校体制で計画的に進める必要がある。
- ・全教職員に学校図書館を活用することの有用感や必要性を意識させるために、公立図書館司書などの地域人材と、顔の見える連携を推進しそのつながりを組織として残していくことなどが重要である。



【提言する佐藤敬子氏】

◆綿貫 亨 氏（登別市立図書館長）

- ・学校図書担当者・図書ボランティア連絡会議を年に 1 回開催し、様々な立場の方々が交流でき、演習等を通してスキルアップが図られるような場を設定している。
- ・市町村立図書館は、子どもだけではなく、大人を含めた「セーフティネット」であり、学校及び地域における役割は極めて大きいと考える。

◆菅原 清美 氏（厚真町立厚南中学校教諭）

- ・学校図書館全体計画等の各種計画に基づいた読書活動に取り組み、授業での活用や委員会活動を通して、学校全体で読書活動の質を高める活動を推進している。
- ・青少年センター図書室との連携を図り、図書司書が学校図書館の環境整備を支援するほか、校内の特設コーナー作成や委員会委員への技術指導を定期的に行っている。

◆山下 麻理子 氏（白老町「みみずく文庫（家庭文庫）」主宰）

- ・家庭文庫を月に 2 度開放し、小学生や乳幼児の親子に利用していただいている。また、児童館でのお話会や親子レクなど、地域全体で楽しめる活動を行っている。
- ・継続的に読書環境を整備していくためのポイントは、学校が図書館活用計画を策定するとともに「家読」を推進することであり、そのため、学校とボランティア団体等が十分に連携を図る必要がある。



「ぶっくん」からのポイント

- ・市町村立図書館が「セーフティネット」としての役割があるとともに学校図書館も「心の居場所」としての役割が必要ですね。

◆フォーラムの内容を踏まえた事後の実践◆

【事例】 壮瞥町における読書活動の充実！

～壮瞥小学校ブックフェスティバル～

- ・3～6年生の学年代表によるミニビブリオバトルを実施するとともに、その後、紹介された 4 冊の本を学校図書館に展示した。

～図書ボランティア ポピーの会の活動～

- ・他市町の実践事例や取組に触発され、「待っている図書室」から、「発信する図書室」を目指し、具体的な取組を検討している。



【児童によるビブリオバトル】



「ぶっくん」からのポイント

- ・壮瞥小学校のような、ビブリオバトルと本選びなどを組み合わせた取組は、子どもたちの読書活動への関心を一層高めますね。

根室会場

令和元年 12 月 12 日（木） 参加者 37 名

◆パネルディスカッションの概要◆

◆原田 純子 氏（ねむろ図書館友の会）

- ・ねむろ図書館友の会や親子読書会の活動に 33 年間携わってきた。親子読書会の活動では、本の紹介や読書感想交流などを地域で実践してきた。
- ・平成 6 年に図書館が移転した際、市民有志で「根室の図書館を考える会」開き、市民が親しめる図書館を模索した。現在は、「図書館友の会」と名称を変え、コンサートを開いたり花壇整備や古本市を行ったりするなど、幅広く活動している。

◆住吉 幹城 氏（別海町教育委員会指導主幹）

- ・平成 29 年度から学校図書館活用促進事業の指定校として、学校図書館の活用促進に向けた研究を推進している。
- ・学校図書館の年間計画を作成し、町立図書館と連携して学校図書館の整備や授業等で必要な書籍の充実を図っている。



【パネルディスカッションの様子】

◆長谷川 武子 氏（読み聞かせサークルおはなしの木代表）

- ・図書館でのおはなし会のほかに、小学校や保育園、子育て支援サークルや老人クラブ等でのおはなし会、教育委員会の実施するブックスタートでの読み聞かせ実践などを行っている。
- ・積極的に地域へ貢献、協力し、その活動の幅が多岐にわたることが評価され、本年度、優良読書グループ全国表彰をいただいた。

◆藤吉 桂子 氏（羅臼町立春松小学校教頭）

- ・羅臼町教育委員会と連携し、学校図書館管理システムを導入して蔵書データベース化ができたため、公民館図書室との横断検索・相互貸出が可能となり、読書活動の充実を図ることのできる支援体制が構築できた。
- ・子どもの読書活動の取組や学校図書館の環境整備等について「図書だより」や「学校ブログ」等で広く発信している。

◆西島 進一 氏（北海道教育庁生涯学習推進局生涯学習課社会教育・読書推進グループ主査）

- ・家庭、地域、学校等が連携して「チーム読書」を推進し、社会全体で子どもの読書活動を推進する体制を構築することの必要性について説明した。
- ・パネリスト発表者のそれぞれの地域では、「チーム読書」の体制がすでに確立されており、今後は、更なるバージョンアップを期待している。



「ぶっくん」からのポイント

- ・根室管内は、行政、学校、ボランティア団体など、それぞれの役割を生かした取組が行われていますね。

◆フォーラムの内容を踏まえた事後の実践◆

【事例】 根室市～土曜おはなし会（根室市図書館）

- ・「図書館ボランティア」が主体となって実施している読み聞かせ会について、近年は高校生などの若手の読み聞かせボランティアの希望者が見られることから、今回のフォーラムで学んだ読書活動におけるコミュニケーションの視点を生かした研修等を行っている。
- ・絵本の場面に応じた子どもたちへの問いかけや対話を重視した読み聞かせを行うことで、読み手、聞き手の双方向のコミュニケーションが成立したとともに、読み聞かせ自体のスキルの向上を図ることができた。



「ぶっくん」からのポイント

- ・地域の若い世代も一緒になって子どもの読書活動の活性化を図っているのは素晴らしいですね。

